

2 0 1 5 年 1 月 2 6 日
東 日 本 旅 客 鉄 道 株 式 会 社
鉄 道 博 物 館

鉄道博物館におけるEF55形式電気機関車の展示について

- 鉄道博物館で、EF55形式電気機関車の展示を始めます。
- 本機関車は、1936(昭和11)年製造で、当館の前身である交通博物館と同じ年に誕生した、縁のある車両です。
- 展示開始は、本年ゴールデンウィーク前を予定しています。

1. 展示するEF55形式電気機関車について

- 1936(昭和11)年に、3両製造されたうちの1両(EF55 1)です。
- 幹線急行旅客用機関車として製造され、当時流行した流線型のボディを採用しています。
- JR東日本高崎車両センター(群馬県高崎市)で保管していた車両で、今後展示公開に向けて整備を行います。

2. 展示場所

ヒストリーゾーン1階 (本館の車両展示エリア)
展示エリア中央の転車台上への展示も検討中

3. その他

公開等の詳細については、今後随時お知らせする予定です。



EF55 形式電気機関車

別紙

EF55形式電気機関車について

- EF55形式電気機関車は、1936(昭和11)年に、3両製造された旅客列車用電気機関車です。
- 幹線急行旅客用機関車として開発され、当時流行した流線型のボディを採用しました。
- 当初は、東海道本線沼津機関区(静岡県沼津市)に配属され、特急「燕」「富士」の先頭に立って活躍しました。
- 1952(昭和27)年に高崎第二機関区(群馬県高崎市)に転属し、高崎線の普通列車を中心に活躍しました。
- 1964(昭和39)年に現役を引退し、中央鉄道学園(東京都国分寺市)に保存された後、古巣の高崎第二機関区で保存されました。
- 1978(昭和53)年、準鉄道記念物の指定を受けました。
- 1986(昭和61)年に、大宮工場(埼玉県大宮市(現さいたま市)、現大宮総合車両センター)で動態復元され、イベント列車等で使用されました。
- 2009(平成21年)以降は、高崎市の高崎車両センターで保管されていました。
- 第二次世界大戦中に機銃掃射を受けたことがあり、運転室内にその痕跡を残しています。



昭和20年代の東海道本線を走るEF55牽引の列車